【　　】

氏名	志　茂　公　洋
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３８９８号
学位授与の日付	平成１６年３月２５日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Complement Regulatory Proteins in Normal Human Esophagus and Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Similar Expression Patterns between Normal Basal/parabasal Squamous Epithelia and Carcinoma Cells （正常ヒト食道ならびに食道扁平上皮癌における補体制御蛋白：正常食道扁平上皮基底層/傍基底層と癌細胞間の発現類似性について）
論文審査委員	教授　吉野　正　教授　谷本　光音　教授　保田　立二

学位論文内容の要旨

ヒトの各種消化管悪性腫瘍における３種の補体制御蛋白、すなわち decay-accelerating factor(DAF,CD55)、membrane cofactor protein(MCP,CD46)、homologous restriction factor20(HRF20,CD59)の発現については同定されてきたが、食道癌における発現については述べられておらず、我々は正常食道粘膜と食道癌におけるこれらの発現分布について免疫組織化学的に検討した。

正常食道粘膜において、CD55 は表層と有棘層に、CD46 は逆に基底層と傍基底層に発現し、CD59 は全層にわたり広く発現した。食道扁平上皮癌においては、CD55 は間質で強く発現し、癌細胞膜ではほとんど発現しなかったのに対し、CD46 と CD59 では癌細胞膜において均一に発現を認めた。このように食道癌細胞と正常食道上皮の基底層、傍基底層との間ではこれらの発現パターンについて類似性が認められた。この我々の所見は、食道扁平上皮癌に対する補体系を介した宿主の免疫応答を解明するうえで有用となる所見と思われた。

論文審査結果の要旨

本研究は、ヒト食道癌と正常食道組織について補体制御蛋白（CD55, CD46, CD59）の発現を検討したものである。正常食道粘膜では CD55 は表層と有棘層、CD46 は基底層と傍基底層に発現し、CD59 は全層に発現していた。食道癌の癌細胞では CD55 は陰性、CD46, CD59 は均一に発現していた。この結果、食道癌では基底層、傍基底層との近似性が認められた。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、食道癌の発生と補体を介する宿主免疫応答性に重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。